

平成 29 年度学校評価結果報告書
(中間評価)



広島県立福山葦陽高等学校
(定時制課程)

目 次

1 自己評価結果

(1) 平成 29 年度自己評価シート（中間評価）・・・・・・・・・・ 2

(2) 平成 29 年度自己評価シート（中間評価まとめ）・・・・・・・・ 5

2 学校関係者評価結果

(1) 平成 29 年度学校関係者評価シート（中間評価）・・・・・・・・ 6

平成 29 年度自己評価シート（中間評価）

校番	12	学校名	広島県立葦陽高等学校	校長氏名	小林泰崇	全・ <input checked="" type="checkbox"/> 定・通	<input checked="" type="checkbox"/> 本・分
----	----	-----	------------	------	------	--	---

※評価基準[A:計画はとてども順調に進んでいる。 B:計画は概ね順調に進んでいる。 C:計画はあまり順調に進んでいない。 D:計画は全く順調に進んでいない。]

学校経営目標				
達成目標	本年度行動計画	評価	理由	担当部等
1 「強く」・・・自ら考え行動することで、人生を切り拓いていくことができる確かな学力を育成する				
生徒の主體的な相互活動を促すことにより、基礎学力が定着し、それを活用する姿勢が育まれている	特別支援教育の視点を取り入れた授業づくりを行い、学び直しを行うと同時に、就職・進学それぞれのニーズに合わせた教材を作成する。	B	○フラッシュカードを活用した授業展開のパターン化により授業規律の確立と、学習習慣の定着を図る取り組みを行っている。 ○1・2年次生については、国語・数学・英語の基礎力定着度を定期考査で見ている。 ○3・4年次生は進路に合わせた教材を授業で使用している。	教務部
	各教科の単元ごとに、基礎・基本の定着を行うとともに、既習事項を活用する演習問題を取り入れる。	B	○「まとめ」の時間を使って全教科で定期的に活用問題を取り上げ、定期考査に取り入れている。 ○現在考査実施3回目であり、取り組み途中である。	教務部
	国語、外国語、情報・商業検定を周知徹底し、受検を勧める。 同時に、事前学習会の実効性を高めるとともに、不合格者への再受験に向けての取組を組織全体で進める。	A	○二学期中間考査時点での受検者(予定を含む)は、漢検5名、英検5名、情報検定68名である。合格者の増加と前回不合格者への個別指導を行っている。	教務部 進路指導部

【評価結果の分析】

- ・ 国語・数学・英語の基礎的・基本的な分野を毎回定期考査に出題し、一学期中間から三学期末までの上昇率7%アップを目指して、定期的な反復学習・小テスト等、指導の工夫・改善を行っている。
- ・ 定期考査では全教科で既習事項を応用して答える問題を出題している。活用問題への取組状況を生徒の学習意欲の目安ととらえ、活用問題の無答率50%以下を目標に授業づくりを行っている。
- ・ 個々の生徒に合った検定を勧め、個別指導をきめ細かく行うことで受検意欲を高めており、指導の過程で教員と生徒の良好な信頼関係が築かれている。クラス全員受検を目標とする検定もあり、全体の意欲向上を目指している。

【今後の改善方策】

- ・ 特別支援教育の視点を取り入れ、生徒のつまずきに対して的確な支援ができるようにする。生活習慣自体に課題がある生徒に対しては、担任・特別支援教育コーディネーターとも連携して指導を行っている。学校全体で学習に集中できるよう教室整備を行うとともに、全教科で授業の流れを視覚化するフラッシュカードを使用して、生徒が学習に入りやすい環境作りを行う。
- ・ 既習事項を実生活と関連させる、考え方のパターンを学習する等、生徒が「できる」と思える演習方法を工夫して学習意欲を高める。答えに至る過程を説明させる、キーワードを提示するなど、他教科の考査問題や指導の工夫を教員間で共有して指導の改善を行う。

- ・ 検定合格の表彰を全校生徒の前で行うことで生徒の意欲を高める。また、上の級を目指す指導をすることで「やればできる」という実感を持たせるとともに、自己肯定感を高める。不合格者に対しては、改善点を整理するとともに、担任と連携して再挑戦の意欲を高める。

2 「正しく」…自ら律し他者と協働することで、地域や社会に貢献していくことができる態度を育成する				
自己肯定感が高まり、社会性を身につけるとともに、勤労観・職業観を醸成し卒業年次の進路実現が図られている	社会性（挨拶、時間を守る、身だしなみ）を醸成するとともに、特別指導の対象者に生徒指導の三機能を取り入れて面談を行い、自己指導能力の育成を積極的に取り組む。	B	<p>○「特別な指導」の再犯率では目標値を下回ったが、挨拶向上実績度数では目標値をクリアしている。</p> <p>○加えて問題行動の発生件数は、前年度を下回っており、問題行動への指導を粘り強く行っている成果が出始めていると捉えている。</p>	生徒指導部
	<p>生徒主体の生徒会活動を行い、多くの生徒が行事に参加する中で、自己と他者を尊重する態度を育成する。</p> <p>学校アンケートで行事の満足度を調査し、生徒会指導に反映する。</p>	B	<p>○学校アンケートでは、学校行事の満足度は87%である。</p> <p>○行事後の生徒や保護者の感想からは、肯定的な意見が多く、行事を通して、他生徒との交流や理解が深められた様子が伺えた。</p>	保健美化部
	<p>進路希望先の早期決定、実現を図る。 在学中の就労についての指導に力を入れ、就労率の向上を図る。</p> <p>進路の手引きの改編、進路指導マニュアルの整備を進める。</p> <p>夏季指導の定着充実を図る。</p> <p>オープンキャンパス、学校説明会、企業見学への参加を促す。</p> <p>インターンシップを計画する。 資格取得に向けた取組を組織全体で推進する。 合格体験・就労体験発表会などを実施する。</p>	B	<p>○現状の実績値は 卒業予定者 9名 就職希望者 6名 進学希望者 3名 10/6 現在 就職内定者 2名 進学合格者 1名</p> <p>○未内定者についてはJST、との連携や個別対応に力を入れ取組を進めている。</p> <p>在校生の就労率72%（去年同期比2.4%up） 学校への定着率が向上しつつある。</p> <p>○葦陽定学びのスタイル」である学業と就労の両立へ向けての支援の充実を図っている。</p>	進路指導部

【評価結果の分析】

- ・ 「特別な指導」件数の中での再指導率（2回以上特別な指導を受けた生徒の割合）が目標値の16%に対し、実績値20%とおり、目標値を4%上回っている。指導を丁寧に粘り強く行い、再指導率を減らしていきたい。
- ・ 「挨拶向上実績度数」の中で「登校したらだれかに挨拶をしていますか」という問いに対して肯定的な回答をした生徒の割合は、目標値80%に対し、実績値80%となっており、目標値と同じ値になった。教職員からのあいさつにも答える生徒が増えつつある。

- 学校アンケートでは、学校行事の満足度は87%である。遠足・球技大会・芸術鑑賞後の生徒や保護者の感想からは、行事を通して生徒同士・保護者同士が楽しく交流し、理解が深められた様子や校外での体験を通して学んでいる様子が伺えた。
- 卒業予定者は例年より少ないが、個々は進路実現に向け、懸命な準備を重ねてきている。高卒程度認定試験合格（1科目）を経て卒業予定者となった生徒を含め現在3名が就職活動をしている。進学希望者は個々の進路先を決定し、受験に向けて準備中である。
- 1年次生の学校への定着率が高く、在学中の就労への意識も向上してきている。担任による就労支援などがプラスに転じてきていると思われる。

【今後の改善方策】

- 注意喚起や巡回指導により、問題行動を未然に防ぐことができるように組織的な生徒指導を継続していく。
- 学年末に再調査する予定である。教職員からも継続して積極的な挨拶を行う。
- 今後も、多くの生徒が行事を楽しみ交流して、ルールやマナーを守る態度を育めるよう、生徒会執行部を中心に生徒主体で活動できる行事を計画・実施する。
- 合格体験発表、就労体験発表、授業成果発表などを計画し、全体の学習意欲や就労意欲を喚起しながら自己理解を深めていく学習を綿密に計画していく。

3 「美しく」・・・グローバル化する社会の中で、多様な人々とつながることができる姿勢を育成する				
地域に学ぶことを通し、社会的な視野を広げ、他者と共生できる姿勢が身についている	外部講師を招いての講演会、地域の文化施設訪問等の「体験的な学び」を企画するとともに実施を通し、生徒の社会的な視野を広げる。	A	○「総合的な学習の時間」における県立歴史博物館見学、保育実習等を実施した。	教務部 生徒指導部
	演習を中心とした横断的・総合的な学習による主権者教育を行う。		○ハワイからの短期留学生を迎え、調理実習と文化交流を行った。 いずれも生徒の感想は充実した前向きなものとなっている。	
	生徒が自己と社会との関係性を自覚できるように、校外清掃や介護施設ボランティア等を実施する。	—	●介護施設へのボランティア・校外清掃は、今後実施する予定で現在計画中である。	保健美化部

【評価結果の分析】

- 「総合的な学習の時間」では、広島県立歴史博物館を見学し、学んだことを作品として制作・発表した。3年次生は進路研究の一環として幼稚園でインターンシップを行った。また、1・2年次生は姉妹校提携しているハワイのワイパフ高校からの短期留学生と交流授業に参加している。英語には不慣れながらも持ち前のコミュニケーション能力を発揮し、良好な関係が築けていた。
- 12月に介護施設へのボランティア活動を、2月に校外清掃活動を実施する予定である。

【今後の改善方策】

- 二学期以降もテーブルマナー講座等を計画している。学習の成果を全体場で披露することで生徒が達成感を持つことができ、体験談を聞いた他の生徒にも「やってみたい」という意欲が生まれる効果もある。昨年度に続いてワイパフ高校への短期留学を希望する生徒が出て来ている。上級生の発表を聞いたり、交流授業に参加したりした効果が現れている。
- 地域やボランティア活動への関心が高められるよう、介護施設と連携し生徒へボランティア活動の周知を図る。清掃活動やボランティア活動を通して、達成感や責任感、自己有用感を高められるように計画・実施する。

平成 29 年度自己評価シート（中間評価まとめ）

校番	12	学校名	広島県立福山葦陽高等学校	校長氏名	小林泰崇	全・定・通	本・分
----	----	-----	--------------	------	------	-------	-----

1 評価結果の分析

■ 「強く」 自ら考え行動することで、人生を切り拓いていくことができる確かな学力と体力を育成する

各行動目標の評価は、『B・B・A』であった。検定試験への受験者数は現時点で延 68 名を数え、情報検定だけでなく漢検や英検に挑戦する生徒もでてきて、着実な成果を生んでいる。受験生徒の達成感や自己肯定感を高めるとともに、生徒どうし刺激し合う環境が生まれ、学習や進路実現に向けての意欲の高揚にも繋がった。

そして、低学年で、『学び直し』も含めた基礎・基本を徹底し、年次が進むに連れて応用力等の汎用的能力を培う指導も計画的・継続的に進めている。

また、平成 30 年度からの『学びの変革・全県展開』に向け、葦陽高校定時制においても、「学習者基点の能動的な深い学び」によって、どのような教育効果があり、生徒の社会的自立にどれだけ役立つのか熟議を繰り返し、授業改善等の具体的な取組を進める中で生徒が変容し、その姿に触発された教員が更なる教育内容の充実に意欲的に取り組んでいる。

■ 「正しく」 自ら律し他者と協働することで、地域や社会に貢献していくことができる態度を育成する

各行動目標の評価は、『B・B・B』であった。生徒指導規程を改訂し、生徒実態に即した指導や支援を組織的に展開する体制の強化を図った。また、保護者参加型のスポーツ大会や生徒会行事、総合的な学習の時間等を活用した体験的教育活動を充実させ、異なる意見を調整し合意形成に努め、協働して新たなものを創造する資質・能力の向上を図った。

また、就労等による放課後の生活の充実にも力を入れ、就労率の上昇や高卒程度認定試験等の合格に繋がった。しかし、授業への定着や問題行動の再発率等に課題が残る。特に、様々な課題を抱える一年生への指導が喫緊の課題である。

■ 「美しく」 グローバル化する社会の中で、多様な人々とつながることができる姿勢を育成する

各行動目標の評価は、『A・一』であった。定時制に学ぶ生徒には、中学校まで不登校であったり、人間関係づくりに困難性を示す生徒が少なくない。社会的な自立に向け、学校内外での様々な体験を通じて、コミュニケーション能力を培い社会性を高める教育を最重要課題の一つ位置づけ、様々な取組を展開した。特に、ハワイからの短期留学生との交流やインターンシップ等の充実を図り、生徒自らが行動して情報発信し、他者との関係づくりに繋げる資質・能力の向上に重点を置いた取組を展開した。今後も、社会的視野を広げ、主体性を育てる取組の更なる創造が課題である。

2 今後の改善方策

■ 「強く」 自ら考え行動することで、人生を切り拓いていくことができる確かな学力と体力を育成する

- ◆ 特別支援教育の視点に立って、生徒が見通しを持って落ち着いて授業に臨めるようユニバーサル化の充実を図る。
- ◆ 発問に創意工夫を凝らし生徒の興味関心を高めるとともに、学習に対して能動的な姿勢を培う取組を推進する。
- ◆ 授業における基礎基本の徹底と検定への積極的な挑戦等を組織的に推進し、主体的に学びに向かう姿勢を培う。
- ◆ 生徒が主体的に学ぶ授業の創造に向け、体験学習型研修等を推進するとともに、相互研鑽の場を創る。

■ 「正しく」 自ら律し他者と協働することで、地域や社会に貢献していくことができる態度を育成する

- ◆ 生徒指導の三機能を十分に活かした指導や支援の実効性を高めて、最も有効な指導を組織的に進め、自律を促す。
- ◆ 生徒会活動や部活動等の活性化を図り、学校全体で『挑戦しよう。皆で、やればできる。』という士気を高める。
- ◆ ハローワークや企業及び J S T 等との連携を強化し、外部資源を最大限に活用して進路実現への意欲を向上させる。

■ 「美しく」 グローバル化する社会の中で、多様な人々とつながることができる姿勢を育成する

- ◆ 合格体験発表や就労体験発表等の充実を図り、成功体験を共有し、生活意欲や自己肯定感を高める取組を強化する。
- ◆ ボランティア活動や就労体験等により、社会の形成者としての自己を認識させ、責任感や自己有用感を高める。
- ◆ 課題発見解決学習を総合的な学習の時間や教科横断型授業に意図的に導入し、協働して困難に挑戦する姿勢を育む。

3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策

様々な課題を持っている生徒が多く、目に見える形での成果は上げにくい実態にあって、生徒の困難性や生活環境等を踏まえた授業改善等、新たな教育内容も創造し、組織的で系統的・計画的な取組が進められている。今後も、生徒の自己有用感や自己実現に向けての意欲を更に増進する取組を継続し実効性を高めるよう様々な指導や助言を頂いた。

前記の『今後の改善方策』を実践して、秩序と規律が守られ安心して学びに向きあえる教育環境の整備を推進するとともに、生徒自らが自律的・能動的に学習し、相互に高め合おうとする学校文化の創造に組織一丸となって邁進する。

平成 29 年度学校関係者評価シート(中間評価)

校番	012	学校名	福山葦陽高等学校	校長氏名	小林 泰崇	定時制	本校
----	-----	-----	----------	------	-------	-----	----

評価項目	評価	理由・意見
目標、指標、計画等の設定の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目指す生徒像に沿って「強く」「正しく」「美しく」に基づいた定時制教育を進める上で具体的な教育目標、指標、計画について概ね適切に設定されていました。 ・ 達成目標のイメージが描ける。 ・ 自己評価シートの中に数値目標があれば進捗状況がわかりやすいと思います。 ・ 各評価指標に対して、現状から判断して実現可能な目標を設定してあるが、挨拶・遅刻・の減少・清掃活動への参加は、学校が一丸となって一気に改善するような重点的な取組等を行って、生徒と教員が達成感を味わうことも必要ではないだろうか。 ・ 生徒がこれから生きていくための力を身に付けられるように考えられていると思います。
計画の進捗状況の評価の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 概ね具体的なデータに基づき、計画の進捗状況が適切に評価されていました。 ・ 中間評価の理由もデータ等がシートの中にあれば分かりやすいです。概ね理解できます。 ・ 比較的、達成しやすい目標にしていることで良い評価が多いが、検定試験の受験などはより高い級への挑戦をさせるなど、生徒が自分の得意なことを作って、それに対して自信が持てるような取組を継続させていただきたい。 ・ 取組の結果ができていていると思います。
目標達成に向けた取組みの適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標達成のための適切な取組がなされており、フラッシュカード等の分かり易い授業のための工夫がみられました ・ 行動計画にある「進路指導マニュアルの整備」「夏季指導の定着充実」「インターンシップの計画」「主権者教育」などは、評価の理由・分析・改善方策のいずれにも触れられていないために、自己評価について適切かどうか判断できない。 ・ 新しいことへの取組を積極的にされており、今後、楽しみだと思えます。体験や資格取得など社会に出る準備と進学意欲を持てるように個人指導の環境を整えてください。 ・ 地道で丁寧な取組がされていると思います。
評価結果の分析の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各項目の評価に対し、具体的な事実に基づいた分析がほぼなされており概ね適切な内容でした。 ・ 現状分析を成果と課題に整理して示してあれば、改善方策とのつながりがわかりやすくなると思う。 ・ まとめでは、分かり易く分析をしてあるが、個々の行動計画で見ると「活用問題の無回答率」や「特別な指導の再犯率」などについて、その具体的な内容が分かりにくいいため、数字だけでは取組の実効性がよくわからない。 ・ 概ね良いと思います。
今後の改善方策の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評価結果の分析に基づき、各項目ごとに改善方策が示され、概ね適切な内容でした。 ・ いずれの改善方策も、今後の教員の取組にかかっており、課題を共有して個々のスキルアップを図ることが必要である。 ・ 良いと思います。個別指導を通して、体験や資格取得などに向けて取り組んでください。 ・ 一人一人に合った方策を考えられていて、それが信頼関係を築く一つとして機能し、生徒たちの気持ちも変わっているのではないのでしょうか。
総合評価	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定時制生徒状況に応じた固有の教育内容が用意され、生徒の自己成長が確認できる適切な自己評価となっていました。年度末に向け定時制教育の更なる充実を期待します。 ・ 学校側の真摯な計画的・系統的な取組が見て取れます。 ・ 忙しいと思いますが、生徒や保護者の意識を測るアンケート等があれば、さらに取組の状況、生徒の変容が見て取れるのではないかと思います。引き続き生徒の成長のために頑張ってください。 ・ 様々な課題を持っている生徒が多いと推察され、目に見える形での成果は上げにくいと思うが、この中間評価に満足することなく、社会人としての意欲が持てて、社会に貢献できる生徒を育てるために頑張ってください。 ・ 新しいことを取り組むなど、今後、変化するであろう内容もありよいと思います。生徒同士、生徒と先生、保護者とのつながりができることで、次の目標設定につながると思います。 ・ いろいろなタイプの生徒がいて、それぞれの対応はととても大変だろうと思います。先生方の努力・アイデアなどに感謝します。

(別表2) 評価基準

	中間評価		
	評価	基準	様式
学校関係者評価	A	とても適切である。	様式7
	B	概ね適切である。	
	C	あまり適切でない。	
	D	まったく適切でない。	
	N	判定できない。	